



# びやびやかつお水揚安定化を目指す カタクチイワシ養殖技術の開発



田中真誠・松原孝博(南水研)・藤田知右・中須賀健吏(愛南漁協)・  
山崎 茂(山崎水産)・長田岩喜(愛南町)

## カタクチイワシ養殖の目的

愛南町深浦漁港はカツオの水揚量が四国一で、その多くは一本釣で漁獲されています。愛南町のカツオは品質が良く、「愛南びやびやかつお」として、町おこしに役立っています。**まき餌に**使われる**生きたカタクチイワシ**は、一本釣漁業の生命線とされています。しかし、近年では年間を通して安定的な確保ができていません。

本研究では、カツオの水揚量の安定化を目指し、愛南町にある優れた養殖技術を活用した、カタクチイワシ養殖技術の開発を目的としました。

## 愛南町はカツオの町

カツオ水揚げ量 四国トップ

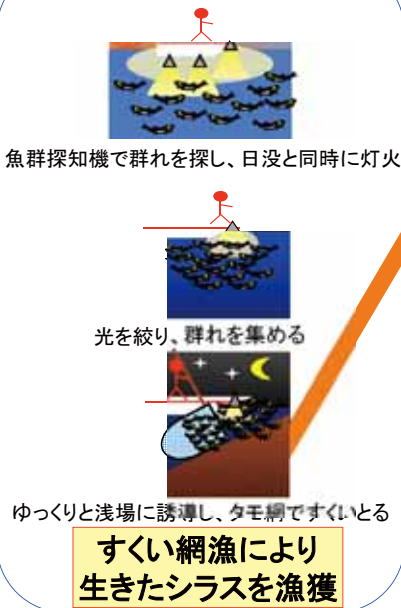
カタクチイワシ



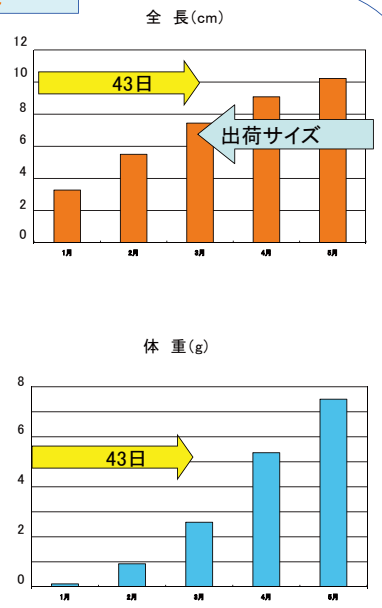
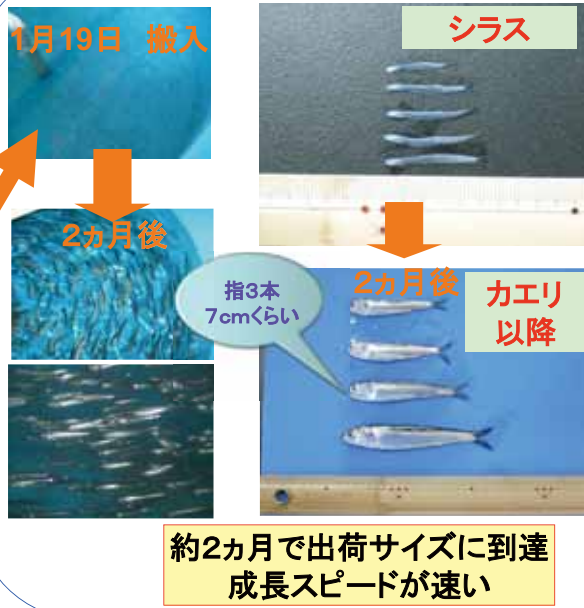
和名:カタクチイワシ  
学名:(*Engraulis japonica*)  
全長:約15cm  
分布:日本全域の沿岸。朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン。  
生態:春から秋にかけて産卵する。寿命は約2年。  
別名:ホウタレイワシ、ホウタレ



### ① シラスの漁獲



### ② 飼育試験



### 最終目標

**大規模カタクチイワシ養殖**  
**カツオ漁業による水産地域振興**

- まとめ シラスからの飼育が可能で、非常に速く大きくなることが分かりました。
- 今後の課題 今後は、低コスト餌料の開発や種苗生産技術の開発が課題です。

